

福祉現場で働きたい女子大学生と 福祉現場で働く女性との交流の試み

静岡福祉大学 社会福祉学部 渡辺央研究室

福祉心理学科 七澤琉衣 平田心彩季 渡邊美穂

研究の目的

- ▶ 福祉現場や仕事の魅力を知る
- ▶ 女性の多様な働き方・女性同士だからこそ話せる悩みの軽減
- ▶ 福祉職の方との縦の繋がりを作る

就活に対する不安軽減

地域福祉の人材育成

研究の内容

- ①講師の依頼・学生の募集
- ②企画・運営・準備
- ③実践

研究の内容

①講師の依頼・学生の募集

- 志太3市(藤枝市・焼津市・島田市)の福祉施設・機関に勤務する若手女性職員（厚生労働省より若年労働者：15～34歳）に対し、どの施設・機関に協力依頼を行うかを検討した。
- 読み手をより惹き付けるにはどのような書き方が良いかを検討しながら、メール・SNS・口頭で周知を行った。また、学内外や福祉に興味のある社会人に対しても周知を行った。
- グループトークの実施にあたり、参加の表明の際に、悩みや聞いてみたいことを募った。

研究の内容

②企画・運営の準備

- ▶ 交流会を開催するにあたり、必要な物、流れ、役割分担を考えた。
- ▶ 実際に下見をして、当日の流れやテーブルの配置などを工夫した。

当日の流れ	
14:00	開会のあいさつ
14:05	ゲスト自己紹介
14:45	グループトーク①
15:15	休憩
15:25	グループトーク②
15:55	全体共有・振り返り
16:20	まとめ・アンケート

研究の内容

③実践：11月15日 藤枝市Biviキャン活動交流スペースにて

- ▶ 藤枝市基幹相談支援センター、焼津福祉会 虹の家、児童養護施設 春風寮、藤枝市立総合病院、島田市社会福祉協議会の5事業所6名の方に講師を依頼した。
- ▶ 参加者は女子大生11名、その他3名
- ▶ 実践としては、職員の自己紹介、施設紹介、グループトーク、まとめの発表を行った。



研究の成果

- ▶ グループトークは2回実施。当日は、グループの様子を見て柔軟に対応したことにより、より深く意見を共有することができた。
- ▶ 交流会後に参加者にアンケートを実施。

グループワークのテーマ

- ワークライフバランス
- 女性の生き方(結婚、出産など)
- 仕事について
- 就職活動に向けて

交流会でのグループトーク

- 主に職場環境や女性に関することが話題に上がった。

職場環境について	女性について
<ul style="list-style-type: none">女性の昇進・異動等キャリアに関すること休んだ際のチームでフォローする体制ハラスメントに関すること	<ul style="list-style-type: none">生理休暇の理解不足男女による業務内容の差ワークライフバランス

参加者アンケート：女性が福祉の現場で働くことについて

参加者14名中12人が回答

とても変わった 6人	<ul style="list-style-type: none">男女差別がなく、育児・生理休暇が取りやすいハラスメント対応についての印象が変わった (セクハラ、デリケートな問題についての申告)想像より働きやすい(体調・結婚・出産・育児・昇進)
少し変わった 4人	<ul style="list-style-type: none">ワークライフバランスを大切にできる環境であると分かった育児・出産・生理休暇が従来よりも取得しやすい思ったよりも働きやすい
あまり変わらなかった 2人	<ul style="list-style-type: none">生き生きしていると思った皆さんが思っていることと現状のギャップをそこまで感じなかった



福祉の現場における育児・生理休暇の取りやすさ、
ライフイベントとのバランスの取りやすさに対して、ギャップを感じたという意見があった。

参加者アンケート：就職活動・将来に対する不安

参加者14名中12人が回答

不安が軽減された 6人	<ul style="list-style-type: none">・アドバイスを聞くことにより、就活への不安が軽減された・専門職の方も同じような悩みを抱える時期があったと分かった・イメージが湧いた・女性だからと諦めなくていいと思えた
少し軽減された 6人	<ul style="list-style-type: none">・「新卒である」ということを活かすといいと気付きを得た・今後何を重視して就活をしたらよいかを知ることができた・女性が多い職場ならではの人間関係の在り方があるということが分かった・ライフイベントなどの不安があったが、話を聞くことで軽減された



現場の職員からのアドバイスを聞くことによって就職活動への不安が軽減されたこと、職員の方も学生時代には同じような悩みを抱えていたことが分かった。

職員向けアンケート：学生とのやり取りで印象に残ったこと

- ▶ 学生時代や入職したての頃を思い出す、自分が抱えていた悩みと同じ
 - ▶ 自分自身を振り返るきっかけになった
- ▶ 学生の悩み、就職活動、実習前の不安について知ることができた
- ▶ 福祉に対して、興味を持ってくれて嬉しかった
- ▶ 賃金や労働環境などについて学生の興味・関心が高かった

職員向けアンケート：学生の就職観や働き方に関する考え方

職員6名中6名が回答

はい 2人	・女性ならではの悩みや不安を感じている方が多い ・やりたいことを見つけ、アルバイトや就職活動に繋げている学生がいたことから、意識が高いと感じた
どちらともいえない 2人	・自分自身「働く」ことに実感がなかった
いいえ 2人	・自分が学生時代に抱えていた悩みと変わらなかった



自身が学生時代に抱えていた悩みと大きく変わりはなかった。

今後の改善点や対策

- 複数大学や関係機関、他団体との連携による共同実施を図ることで、参加者層の拡大と事業の継続性、波及効果を高めることが期待される。
- より議論を深めるため、テーマを絞った意見交換や分科会形式の導入も視野に入れていきたい。

市への提言

- 福祉の現場に対する一般のイメージ・先入観を刷新していく必要がある
- 市が交流会などの機会を設けることで、幅広い年代の方に福祉の現場について興味を持ってもらう
- 学生と職員・現場との継続的なつながりを促進していく
- 生理休暇・昇進への関心度をもっと上げていく

まとめ

福祉職の理解を深め、将来の不安を軽減できた！

地域の福祉人材不足の活動につながった！

学生の視点から福祉の魅力を発信したい！

